

【令和5年度 授業改善推進プラン】

	授業改善の具体的な方策						
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読み解く力の育成を目指した授業展開の工夫として一つ目に、語彙を増やす活動を取り入れている。教科書を活用して語彙の拡大を目指し、国語辞典・漢字辞典を身近に置き、分からない言葉はすぐに調べられるようにする。また、低学年では、多層指導モデルMIMを実施し、語彙力を育て、読みの流暢性を高め、中・高学年では、NIEを月に2回実施し、読み解く力の向上を目指している。二つ目に、読み取った内容について教科書の本文から根拠を示すことができるような指導を行う。 ・自分の考えを表現する活動では、基礎的な話型や文型を活用して、相手に伝わりやすいように順序立てて発表したり、書いたりすることができるように支援を行う。 ・考えを共有する時間では、ハンドサインやPCを活用しながら、自分の考えを表現したり友達の考えと比べたりしていく中で、自分の考えを深めることができる機会を設ける。 ・基礎的な能力の定着のために多様な言語活動を取り入れる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">話す・聞く</td> <td>・声の大きさや速さ、話型の活用など、相手意識をもって話すスキルを高め、要点を逃さずに聞くことができるよう指導を行う。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">書く</td> <td>・文の基本的な構造を理解した上で、読み手に伝わるように自分の力で書くことができるよう指導を行う。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">読む</td> <td>・何のために読むのか、読むことによってどういうことを目指すのか、目的を明確にして、教科書の文章について理解を深めるように指導する。</td> </tr> </table> ・言語事項の定着のため、漢字やカタカナなどの練習を繰り返し行い、習熟を図る。そして、学年の発達段階に応じた家庭学習や読書活動を充実させる。 	話す・聞く	・声の大きさや速さ、話型の活用など、相手意識をもって話すスキルを高め、要点を逃さずに聞くことができるよう指導を行う。	書く	・文の基本的な構造を理解した上で、読み手に伝わるように自分の力で書くことができるよう指導を行う。	読む	・何のために読むのか、読むことによってどういうことを目指すのか、目的を明確にして、教科書の文章について理解を深めるように指導する。
話す・聞く	・声の大きさや速さ、話型の活用など、相手意識をもって話すスキルを高め、要点を逃さずに聞くことができるよう指導を行う。						
書く	・文の基本的な構造を理解した上で、読み手に伝わるように自分の力で書くことができるよう指導を行う。						
読む	・何のために読むのか、読むことによってどういうことを目指すのか、目的を明確にして、教科書の文章について理解を深めるように指導する。						
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・読み解く力の育成を目指した授業展開の工夫として、まず、課題を解決していくために、自力で教科書や資料集の本文や資料(図・写真・グラフ)から読み取った内容をノートにまとめていく。その際、読み取りが苦手な児童には、黒板にキーワードを板書したり、デジタル教科書を活用して資料を説明したり文章を確認したりする等の支援を行う。 ・協働学習としてペア・小グループで読み取った事実や事象、疑問や考えを共有したり比較したりして互いに高め合い、全体発表に向けて意欲を高められるような場を設ける。 ・学級全体での話し合いでは、読み取りをした複数の資料を比較したり関連付けたりしながらその特色や特徴を捉えることで、自分の考えを再構築できる機会を設けるようにする。その際ハンドサインを活用し、自分の考えを表現したり友達の考えと比べたりしていく。 ・学習のまとめとして行う新聞づくりや発表会では、知識のまとめのみに終わることなく、単元を通して「何を考え、何を学ぶことができたのか。自分にできることはないか等」をしっかりと振り返らせる。また、タブレットを活用して学習したことを児童が工夫してまとめ、表現・発信できるようにしていく。更に、社会的事象に興味をもって新たな課題を設定したり、これからの生活に生かしていこうとしたりする態度を育てる。 						
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果から、全体の傾向として「領域」では図形、「評価の観点」では思考・判断・表現、「問題形式」では記述式の正答率が少し低いことが分かった。要因としては問題を正しく読み取ることができない、自分で考えたことの論理的な説明や文章化が難しい児童が多いと考えられる。そこで、読み解く力の育成を目指した授業展開の工夫として、以下の4点を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> ①現在までに学習した既習事項を活用しながら学習を進めていく。新しい課題が既習事項のどの部分と同じで、こういった形で生かせそうなのかを明確にして課題解決の方法を考えさせる。 ②絵や図(テープ図、数直線等)、言葉の式から計算式に関連付けて考え、自分の考えを文章化させる。その際、教科書や学習シートを活用し、教科書や学習シートに沿って自力で問題解決ができるように指導・支援していく。 ③本時のまとめをした後に、「練習問題」に取り組み、理解の定着と学習の習熟を図る。 ④振り返りを書く際の焦点がずれないように、めあてに正対できるような具体的なキーワードを提示する。 更に、朝行う板五タイムでは、基礎基本の定着に加え、面積の公式を自分の言葉で説明したり、文 						

	<p>章問題を解決する手立てや道筋を分かりやすく文章化したりする学習内容を充実させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働学習を取り入れ、友達の良い考えを認め、自分の考えについて自信をもって伝えることのできる児童を育てていく。また、ハンドサインを活用することで学習に積極的に参加し、自分の考えを表現したり友達の考えと比べたりしていく。 ・実態に応じて高学年では授業開始時に「フラッシュ暗算」に取り組み、計算の定着を図る。 ・スキルアップ教室等で、ベーシックドリルや、ドリルパーク等を用いて、基礎的基本的な知識や技能を身に付けさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・読み解く力の育成を目指した授業展開の工夫として、考えたことを自分なりの表現方法（図や表・文・絵・言葉で伝える）で表すことを行う。表現が苦手な児童には、助言や対話をしながら表現させる。考察の際は全体で結果などを確認しながら行う。 ・全クラスで「課題把握→予想・仮説→観察・実験の計画→結果の予想→観察・実験→結果と考察」という思考の流れを意識した授業を行う。その際に、以下の項目について留意して授業展開を行う。第3学年は、比較（結果の共通点や相違点）。第4学年は、関連付け（はたらきや時間などを関係づけながら調べる）。第5学年は、条件付け（実験を行う際の問題解決に向けた条件制御）。第6学年は、推論（自然の事物に関わる原因や決まり、関係について仮説を立てながら予想する）。 ・自然の事物や現象に直接出会えるように（体験・体感）できる）場面を多く取り入れる。地理的・物理的にそれが難しい場合なども、Chromebookや備品等で補えるようにする。
音楽	<p>① <u>曲想と音楽の構造との関わりに気づき、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「表したい音楽表現」について、具体的なイメージをもてない児童が多い。また、リコーダーや歌唱の技能に、個人差が見られる。 ・曲想や歌詞、曲の特徴をもとに、思いや意図をもつように促す必要がある。 ・音楽を形作っている要素に着目させ、表現をどのように工夫すると良いのか見通しをもつことができるよう、例示したり模範を示したりする活動を充実させる。 <p>例 「旋律の高さが高くなるにつれて、強くなるように演奏すると、曲の山を感じやすい」ことを、模範演奏によって示す。</p> <p>音楽のつくりを示した表をもとに、音楽の終わり方をどのように工夫したら、終わる感じが出るのか比較検討するようにする。</p> <p>② <u>音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴いたりするようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて、感じ取ったことや聴き取ったことをそれぞれ述べることはできる一方、両者を結び付けて考えることが苦手な児童が多い。 ・「気付いたこと」「感じたこと」それぞれを書いたり、発表したりするようにしているが、それらの関わりに気付かせるような手立てを講じることができていない。 ・「一問一答」を意識し、児童に問い返しをするようにする。また、一人一台端末のホワイトボードアプリ等を使って、考えと考えのつながりを可視化することができるよう、手立てを工夫する。 <p>例 C「『白鳥』の伴奏は、水が静かに流れている感じがする。」 T「音のどこからそう思ったのですか。」 C「『タララタララ・・・・』と、ピアノのリズムが細かいところからです。」 T「リズムが細かいことと、水が流れていることが結びつくのですね。」</p> <p>この考えについて、皆さんは、どう思いますか。」</p> <p>③ <u>進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しみ、音楽経験を生活に生かしていこうとする態度を育てる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習経験や、音楽会等の行事、鼓笛隊等の課外活動に触れてきたことから、音楽科の学習に粘り強く取り組む児童が多い。一方、取り組みの過程を振り返り、学びを調整しようとする姿はあまり見られない。 ・「見通しをもつ」「活動をする」「振り返る」という自己調整学習を組み入れていく必要がある。 ・スライドやスプレッドシート等を活用し、学びの過程が一目で見てわかるポートフォリオを作成す

	<p>ることで、授業の最後に振り返りをしたり、うまくいったこと・うまくいかなかったことを見直したりする時間を設け、児童の自己学習力を高める。</p>
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から表現力や技術力を高められるように、試作をさせたり材料の特性を理解させたりしながら取り組ませる。 ・発想の仕方や手立ての提示、学習活動の展開の方法、基本的な技能の習得を丁寧に行い、一人ひとりが十分に満足できるような製作活動を目指す。 ・図画工作科における、読み解く力の育成が図れるように教科書の参考作品や解説などを活用した指導を行う。 ・参考作品や段階に応じた見本などを掲示して具体的なイメージをつかみやすくさせる。 ・活動の流れと時間の見通しをもたせ、スモールステップで自信をもたせながら取り組ませる。 ・活動中、児童一人ひとりがそれぞれに必要なとする支援を見取り、個別に対応していく。 ・作品についての考えや思いを友達に伝えたり聞いたりする活動を取り入れ、作品の見方や感じ方を深められるようにしていく。 ・危険な道具を扱う授業では、導入時に必ず安全面の指導を行う。 ・題材に応じて、一人一台端末を活用した指導をする。特に造形遊びのように場所や空間に働きかけ、作品の形が最終的に残らない題材では写真機能を使い、児童の製作活動の充実を図る。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の生活を見つめなおし、学習したことを生かせるよう、問題解決的な学習の場を積極的に設ける。 ・協働学習としてペア・小グループでの学習や実習で、考えや意見を伝え合ったり、互いに協力し助け合ったりすることで、高め合える場を設ける。 ・家庭生活での実践を意識化できるよう、家庭科ノートを活用したり、実践してきた作品を掲示したりすることで、互いの学びを認め合い、次の学習へとつなげていけるようにする。 ・各教科・総合的な学習の時間との関連を図り、家庭生活における実践的な態度の育成を図る。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、めあてを提示し、課題解決の方法を確認したり、振り返りの場を設けたりして、めあてを達成できるようにする。 ・各種の運動について、その運動の特性を理解し、運動内容そのものや、学習過程、場、用具、資料、始めのルール等を工夫した計画を立て指導にあたる。 ・児童相互の励まし合いや教え合い等、学び合いがしやすい場面の設定に努め、ICTを計画的に活用していく。 ・学習環境を整えて安全に運動が行えるように、学習の系統性に配慮し、学年を通して同時期に同じ領域を計画・準備する。 ・健康な生活、育ちゆく体とわたし、心の健康、けがの防止、病気の予防について、自己の生活と結び付けて考えられるようにする。 <p>〈健康・安全への配慮〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後の手洗いを徹底する。 ・熱中症予防として、授業前・授業中の水分補給の時間を確保し、マスクを外させる。 ・用具の準備・片付けに際して、児童同士の声掛けや片付け方を提示・確認をする。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、小学校入学当初においては生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行う。 ・気付きを確かなものにし、関連付けることができるように、具体的な活動や体験で生まれた気付きを言葉、絵、動作等、多様な方法により表現し、伝え合う活動を設定する。 ・具体的な活動体験を通して気付いたことを基に、身近な人々、自然、社会のよさや大切さを考えることができるように、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する等の多様な学習活動を展開する。 ・学んだことを生かして自分たちの生活をよりよくする態度を養うために、協働的に工夫したり楽しんだりする学習活動を単元計画に組み入れる。
総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを明らかにし活動のゴールとそこに至るまでの筋道を鮮明に描くことができるような学習活動の設定と振り返りを重視する。 ・学習活動を振り返り、体験したことと収集した情報や既存の知識とを関連させ、自分の考えとして

	<p>文字言語によってまとめる活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えるための技法（思考ツールなど）」を意識的に使っていく。 ・探究的な学習とするために学習過程を「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のイメージをもって授業を展開する。 ・協働的に学ぶことの意義である「多様な情報に触れる」「異なる視点から検討できる」「相手意識を生み出したり仲間意識を生み出したりする」の3点を実現するために他者と共働して主体的に取り組めるような学習活動を計画する。
<p>特別の 教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、アンケートを活用したり、体験した写真や話で体験を思い出させたりしながら体験的な要素を深めることができるようにする。 ・児童の心情や判断が視覚化できるもの（PCなど）を活用することで、話し合いを活発にさせ、多面的な考えに気付きやすくする。 ・主体的、対話的な「議論する道徳」にするために、児童が考えたい必要感のある発問にしたり、既存の価値観を揺さぶるような発問にしたりして工夫する。また、ハンドサインを用いて、児童の考えをつないで思考を深められるようにする。 ・より主体的に考えることができるように、動作化や役割演技などの指導法を工夫する。 ・特別の教科道徳の教科書「生きる力」と合わせて、「東京都道徳教育教材集」も活用して自分の生活を振り返り、価値に照らしてよりよい自分の姿を考えることができるようにする。
<p>外国語 ・ 外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」力を身に付けさせていく。 ・高学年の「読む力」を身に付けさせるために、まず身に付けさせたい語彙や表現に十分慣れ親しませる必要がある。そのため、単元の導入時に様々なアクティビティーを通して、繰り返し聞いたり発話したりすることで語彙や表現に十分触れさせる場面を設定する。その後、語彙や表現を目で捉え、段階的に読めるようにしていく。音声と文字の関係がわかって初めて「書く」指導を行うようにする。 (読み解く力の育成に向けて、「イメージ同定」を意識した授業展開をするようにする。) ・低学年や中学年については、様々な活動を通して、「話すこと」や「聞くこと」を意図的に行い、コミュニケーション能力の素地を養っていく。 ・ALTとの連携については、あくまで担任が主導であることを念頭におきながら指導していく。授業の進行は担任が行い、発音やデモンストレーションを示す必要がある場合に、ALTと連携を取りながら指導を行うようにする。 ・デジタル教科書を有効活用していく。慣れ親しませたい語彙や表現については、何度も繰り返し音声を聞かせる。(ALTによっては、本人の発音とデジタル教科書の音声に大きな違いがある場合もあるため、心配な場合には、デジタル教科書を主軸として音声を聞かせる必要がある。※児童の混乱をさげさせるため) ・外国語活動や外国語の指導を行う上で、児童に英語でコミュニケーションを取ることで、どんな良さがあるのか、伝えて行く必要がある。(日本国内だけでなく、世界中の人々とコミュニケーションをとれるようになる。) また、ただ教科書に沿って指導をするのではなく、児童が「聞いてみたい」「伝えたい」と思えるような「必然性」をもたせた場面設定をしていく。